

都市交通研究室

1. はじめに

都市交通研究室は、今後の人口減少や少子高齢化、環境問題等の都市交通に関する今日的な課題に対応しつつ、豊かな生活の実現を支援するために、広域都市圏からコミュニティまでの多様な空間スケールにおいて都市交通に関する施策の展開に向けた理論的・実践的な調査研究に取り組んでいます。

2. 主な研究活動

(1) 政策立案を支援する要素技術に関する研究

財政的な制約条件の下で、需要への量的な対応に加えて、より安全で快適な移動環境の確保が求められています。

これらの時代の変化に対応しつつ国の政策立案に貢献するために、高速道路の料金体系や道路空間の断面構成、大規模開発に伴う交通への対応のあり方などに関する要素技術について、調査・研究に取り組んでいます。

(2) 都市交通マスタープランをはじめとした総合交通計画策定に関する研究

高齢化の進展や人口減少などにより、今後、移動する人の量や属性が変化することが予想されます。また、環境問題や健康への意識の高まりに伴い、移動に対するニーズも変化してきています。

このため、都市交通に関する複合的な課題を解決し、望ましい将来像を実現するために交通施策をどのように横断的に展開すべきかについて、望ましい目標像を達成するための諸々の施策やパッケージ的な展開方策に関する技術の調査・研究に取り組んでいます。

(3) 生活を支える交通手段提供方策に関する研究

モータリゼーションの進展により、地方部だけでなく三大都市圏においても路線バスの利用者減少が続き、路線の撤退をはじめとしたサービスレベルの低下が進んでいます。一方で今後の高齢者の増加を

考えると、自動車に依存しない交通体系の構築が求められています。また、道路渋滞や駐車場入庫待ちの行列など、局所的な問題が発生しています。

このため、都市交通マスタープランや都市・地域総合交通戦略などの総合交通計画と整合する形で、コミュニティバス導入や自転車の利用促進、快適な歩行空間の創出、駐車場の整備、超小型モビリティの導入等の個別計画策定に取り組んでいます。

(4) 都市交通に関する海外情報の収集整理

上記の各項目について、海外情報を収集し、我が国の都市・交通の取り組みへの適用可能性や我が国の課題について調査研究を実施しています。

3. 主な研究テーマ

(1) 政策立案の支援

- ・利用者均衡配分の手法に関する検討
- ・大都市圏における高速道路の料金体系のあり方に関する検討
- ・道路空間の再配分に関する検討
- ・自転車の利用環境創出に関する検討
- ・大規模開発に伴う影響を評価する手法の検討



写真-1 大規模開発地区関連交通計画マニュアルの解説書

(2) 総合交通体系の計画立案

- ・都市交通マスタープランの策定
- ・都市・地域総合交通戦略の策定
- ・ハード整備とソフト施策の連携方策検討
- ・土地利用施策と交通施策の連携方策検討

(3) 個別交通手段の計画立案

- ・コミュニティバス導入計画の策定
- ・自転車利用総合計画の策定
- ・快適な歩行・滞留空間の形成
- ・駐車場整備計画の策定
- ・超小型モビリティの導入
- ・モビリティ・マネジメントの実施
(居住地 MM、事業所 MM、学校教育 MM)

(4) 都市交通に関する海外情報の収集整理

上記の各項目について、海外情報を収集し、我が国の都市・交通の取り組みへの適用可能性や我が国の課題について調査研究を実施しています。



写真－2 道路空間オープン化社会実験のイメージ



写真－3 超小型モビリティ導入のイメージ

4. 社会貢献活動

(1) 学会活動・外部委員会等

土木学会、都市計画学会、交通工学研究会、日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM) 等の各学会に参画しています。

また、交通まちづくりの実践研究小委員会 (土木学会)、教育企画・人材育成委員会土木と学校教育会議検討小委員会 (土木学会)、「子育て・子育てまちづくり」特別研究委員会 (日本福祉のまちづくり学会) 等に委員として参画しています。

さらに、大学等の外部機関と共同で各種の研究活動を行っております。

(2) 自主研究活動

受託業務のほかに、自主研究活動を行っております。

- ・郊外生活に提供されるべきモビリティと公共交通の役割に関する調査研究
- ・学校教育におけるモビリティ・マネジメントの実施に関する研究 他